

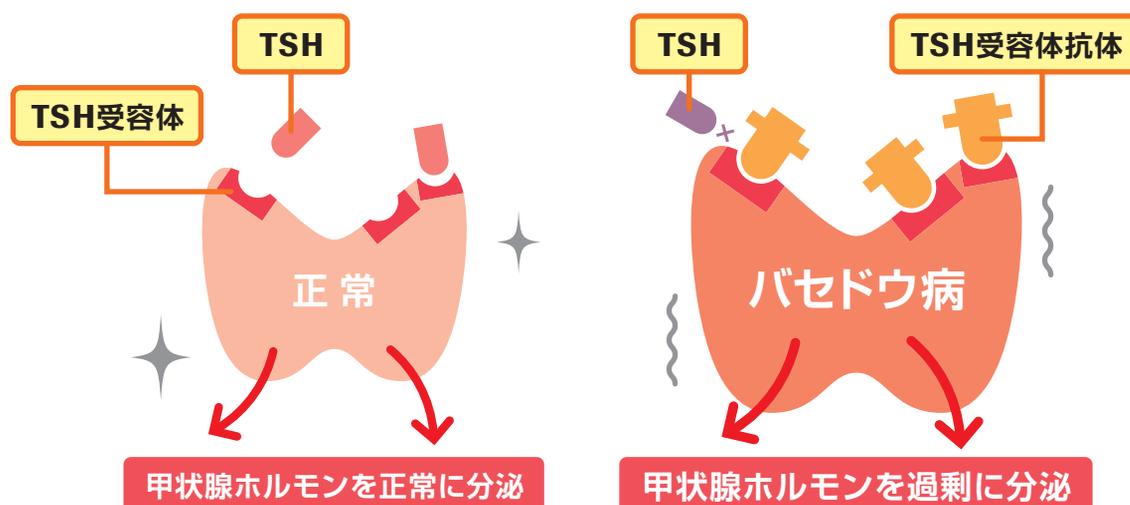
バセドウ病の診断の第一歩は TRAbを測定することです

TRAb (TSH受容体抗体)

監修: 上條甲状腺クリニック 院長 上條甲状腺研究所 所長 上條桂一先生

TRAb バセドウ病の診断にはTRAb検査は必須です

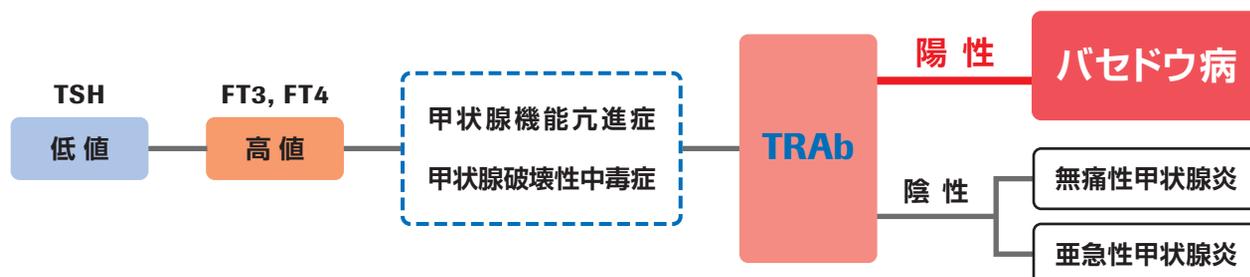
バセドウ病は甲状腺のTSH受容体に対する自己抗体、TSH受容体抗体が原因です



バセドウ病は自己免疫異常により、このTSH受容体に対する自己抗体であるTRAb(抗TSHレセプター抗体)が出現し発症します。このTRAbがレセプターに結合して、甲状腺ホルモンを過剰に分泌させて甲状腺機能が亢進します。このとき体内には過剰に甲状腺ホルモンが存在していますので、TSHは抑制されて低値を示します。

TRAb バセドウ病の診断には、抗体検査(TRAb)が重要です

TRAbの測定によりバセドウ病と無痛性甲状腺炎の鑑別が可能となります



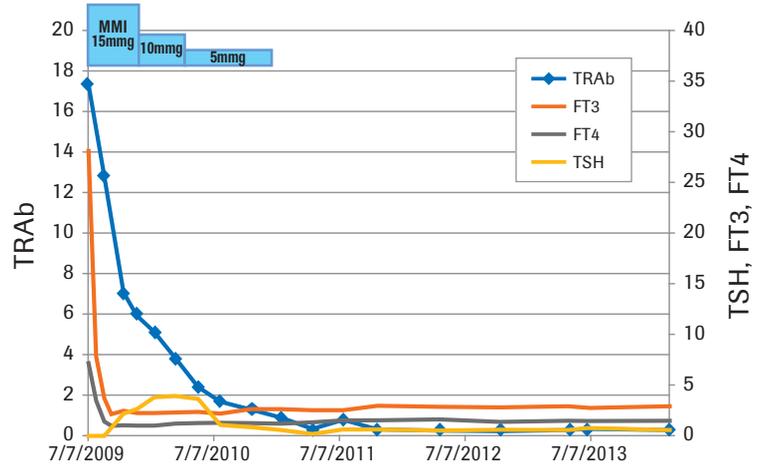
バセドウ病を発症すると、FT4 FT3が増え、TSHが抑制されます。しかしここでみられるように、FT4 FT3が増え、TSHが抑制される病気には、甲状腺の痛みを伴わない無痛性甲状腺炎と発熱や痛みを伴う亜急性甲状腺炎とがあります。これらの疾患は、甲状腺ホルモン値の結果だけでは診断することができませんのでTRAbの測定が診断の決め手になります。



バセドウ病診断後TRAbの測定は経過観察に有効ですか？



TSH、FT4、FT3に加えて病勢の把握、投薬中止時期を検討する目安にTRAbの測定はとても重要です。定期的にTRAbを測定して投薬を中止した症例です。



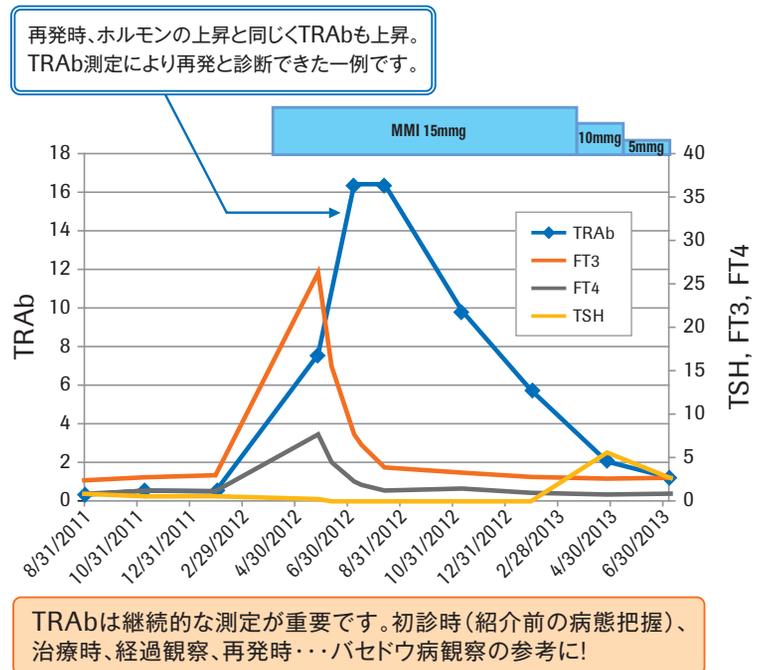
*バセドウ病が寛解しているかどうかを正確に判断する方法はまだ見つかっていません。現地点では、最少量の抗甲状腺薬で一定期間、甲状腺機能が正常である事を確認した後に投薬中止を検討することになります



バセドウ病の再発とTRAbの値には関係があるのですか？ TRAbを測定するべきですか？



バセドウ病の再発と思われる症例ではTRAbの測定が重要です。TRAbを測定し陽性であればバセドウ病再発と診断します。



TRAbは継続的な測定が重要です。初診時(紹介前の病態把握)、治療時、経過観察、再発時・・・バセドウ病観察の参考に!

【検査要項】

検査コード	検査項目	材料	検体量	容器	保存条件	所要日数	検査方法	基準値	診療報酬区分番号	保険点数	保険収載名称
6800	TSHレセプター抗体 (TRAb)	血清	0.5mL	A1→A2	冷蔵	1~2	ECLIA法	2.0 未満 IU/L	D014-23	243*	抗TSHレセプター抗体 (TRAb)

*抗TSHレセプター抗体 (TRAb) 及び甲状腺刺激抗体 (TSA) を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定する。
※関東、東海、岡山、九州、沖縄地区の所要日数は2~3日です。